

1. 戦略的AI活用の背景

現在、AI（Artificial Intelligence；人工知能）は、もはや関心が寄せられる段階を超え、国内外において社会、産業のあらゆる分野でその活用が急速に浸透しています。

既に多くの行政機関では、職員の業務効率化、住民サービスや顧客体験の向上、そして複雑な地域・社会課題の解決に向けて、AIが不可欠なツールとなっています。今後は、限定的な導入に留まらず、組織全体のDX推進の中核として、AIの本格的な導入と戦略的な活用がますます加速していくことが予想されます。

行政におけるAI導入に関する課題

- ✓ AIを具体的にどのような分野や業務に取り入れれば効果があるかわからない
 - ✓ 庁内の検討体制をどのように構築していくかがわからない
 - ✓ 保有するデータ（個人情報、庁内の機密情報）の取り扱いが難しい
 - ✓ AI導入にかかる市民や議会からの理解、予算要求・庁内調整が大変
- （自治体におけるAI活用・導入ガイドブック（総務省））

2. ご提案の趣旨

AIの導入による業務変革のシナリオの作成し、試行・評価のサイクルを繰り返すことで貴団体における業務の効率化や高度化を図ります。

提案の4つのポイント

- ① AI活用による業務改革
→ AI活用による業務の効率化・高度化
- ② 現場におけるユースケースの検証
→ 現場に根付いた業務改革案の作成
- ③ モニタリングによるKPI評価
→ 試行・評価のサイクルによる導入効果の評価、改善
- ④ アフターフォローによるAI活用の定着化
→ AI構築後も継続支援



3. ユースケース

現場の業務 (AsIs)の問題点と、AI導入による改善後の業務(ToBe)の効果をユースケースとして検証することで、現場に根付いた業務変革の推進を支援します。

■ 「生成AI」×「行政手続き」のユースケース例



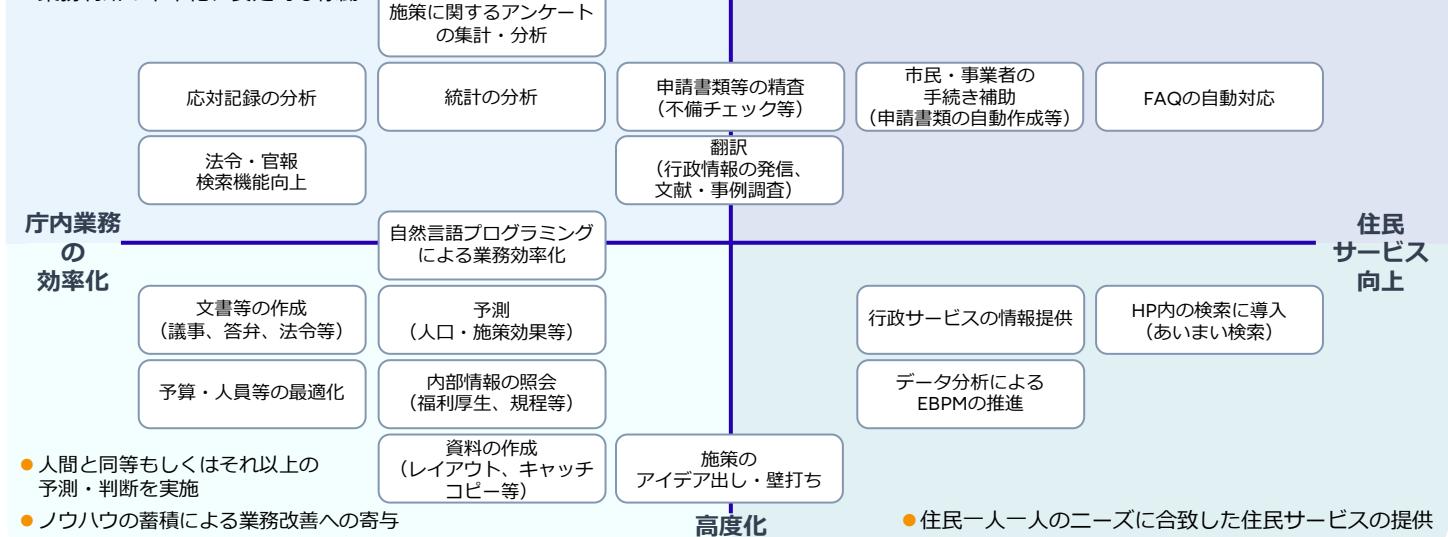
4. AI適用マップ^o

行政手続き以外にも様々なユースケースでAIの導入が検討できます。AI導入により、大規模定型処理の自動化や、専門知識を持つ人間と同等またはそれ以上の高度な判断等を通じて、庁内業務の効率化や住民サービスの向上の実現に繋げます。

- 大量・高速処理により作業負荷・誤作業を低減
 - 業務判断の平準化、安定的な稼働

AI導入のメリット：自動化

- 住民がいつでも、どこでもサービスを利用可能



5. 戦略的AI活用コンサルティングの進め方

構想策定やプランニングにとどまらず、お客様とともにAI活用の試行・実施を繰り返すことで、成果の創出とAI活用の定着を支援します。

構想		計画		試行・実施		評価
作業工程	1. 業務改革テーマの選定	2. ユースケースの分析	3. データ活用シナリオの策定	4. アクションプラン策定	5. データ活用シナリオの試行	6. ロードマップに基づく段階的実施
内容	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 外部環境分析 ✓ 内部環境分析 ✓ 改革テーマ選定 ✓ 改革目標設定 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 対象業務の人と作業、情報の分析 ✓ 対象業務の問題・課題の把握 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ データ活用シナリオの作成 ✓ 業務改革案の作成 ✓ KPI設定 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 戦略マップ、改革テーマ定義 ✓ 戰略的データ活用方針の検討 ✓ ロードマップの作成 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ データ活用シナリオの試行 ✓ AI導入支援 ✓ 試行結果の評価 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 戰略的データ活用による業務改革の実行 ✓ AI活用定着化支援

お問い合わせ先

富士通株式会社

パブリック事業本部 パブリックコンサルティング事業部
担当者：長谷川（hasegawa.mak-05@fujitsu.com）、松藤（m.yoshivuki@fujitsu.com）

〒212-0014 神奈川県川崎市幸区大富町1-5 JR川崎タワー